

あかるい生田

2009年8月
市議会報告
日本共産党
市会議員
井口まみ
(発行)
日本共産党市会議員団
川崎市川崎区宮本町1
電話 200-3360
FAX 245-4140
http://www.
iguchi-mami.jp

「生田浄水場を廃止しないで！」 市議会に1400筆の署名提出される 署名、さらに続々と

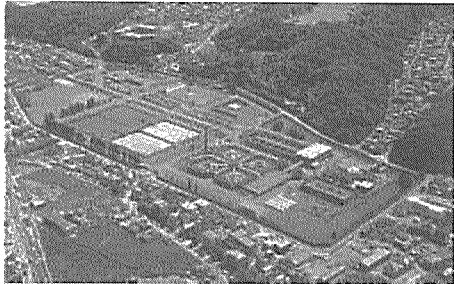
「多摩区のおいしい水道水を守れ！」
川崎市が7年後に生田浄水場を廃止し、昔の地下水のくみ上げもやめるといことが市民の中に広がり、その再検討を求める請願署名が、6月末市議会に提出されました。短期間で一四〇〇を超え、さらに続々と集まっています。
日本共産党川崎市議団は、この趣旨に賛同し、請願提出の紹介議員になるとともに、いっそう前進するよう、集会にも参加して激励しました。

地下水は市民の貴重な水源 勝手になくすことは許されない

「都内に住んでいたが、友人の家で飲んだ水のおいしさに、多摩区に引っ越してきた。地下水をやめたら来た意味がない」「中野島では戦前戦後、地下水を利用して鯉を飼っていた。水道に使うので地下水を取らないでほしいといわれ、事業に大きな影響が出たが市に協力するのだからと井戸をやめた。そういう市民の協力を無にするつもりか」。こんな怒りの声が上がったのは、五月三十一日、中野島会館で開催された「生田浄水場の廃止の再検討を求める署名スタート集会」の席上でした。

集会を呼びかけたのは、「かわさきの安全でおいしい水道水を守る会」(町井弘明事務局長)。

集会では、川崎市水道局が、生田浄水場の廃止の理由として「川崎市水道事業再構築計画」を説明しましたが、市民に安全安心の水を供給するということよりも、コストの削減と、小



田原から取水している神奈川県内広域水道企業団の高い水を買っているため、ということが明らかになり、「それは身近で安全な水源をないがしろにするもの」とたくさんの批判が飛び出しました。
集会には全会派の市会議員が参加を呼びかけられ、日本共産党の井口まみ市議と斉藤たかし市議が参加。「日本共産党はいっかんして、高くて遠い水」を買

い続けることに反対している」と、運動を激励しました。

請願の紹介議員は共産と民

主だけ
六月二六日、市議会に請願署名が提出され、受理されました。短期間に署名数は一四〇〇を超えました。
日本共産党は竹間幸一団長が紹介議員になりました。自民党と公明党は、趣旨に賛同せず紹介議員はいませんでした。
署名活動は続いており、さらに集まっています。市役所を訪れた「会」の町井事務局長は「こんなに市民が関心をもってくれる署名はなかなかない。それだけ水の問題は身近なこと。市民の声にこたえるようにがんばりたい」と語っています。



集会で発言する井口市議

井口まみ市議の話

川崎市は来年度から水道料金を引き下げますが、むしろ大企業など大口利用者への値下げが手厚く、庶民は3年間に限り月53円というわずかなものです。
いっぽうで水道事業はいっそうのコスト削減をせまられ、その一環として生田浄水場を廃止しようとしています。遠くから高い水をわざわざ買って、近くのおいしい水をやめてしまい、浄水場もひとつに統合して、いざというときに、危機管理もできなくなる今度の計画は、理不尽といえるのではないでしょうか。しかもこの計画を推進していくと、実はいずれ水道料金を上げざるをえなくなります。
いまの水道料金を維持して、安心でおいしい水を供給するには、何が何でもコスト削減ではなく、水道管の耐震化の費用などに一般会計から繰り入れをして、事業運営の安定化を図ることが必要だと考えます。

多摩スポーツセンター いよいよ工事始まる!

温水プールが設置される、念願の多摩スポーツセンターの工事がいよいよ始まり、建設予定地に囲いが作られました。教育委員会の話では、八月上旬に本格工事が始まり、完成・開館は、予定通り、来年の十二月です。

道路の安全確保に全力

引き続き近隣とよく協議を
教育委員会によれば、事業者は、地元で何度か行われた説明会でだされた意見を尊重し、誠実に対応していくとしています。
一番出されていた問題は、工事



工事用の囲いができた建設予定地

中および開館後の周辺の交通安全対策です。工事中は近所で入場待ちのダンプの停車を認めないことはもちろん、関係するすべての学校やPTAの意見を聞き、安全対策をとることになっていますが、実際に工事が始まると、さまざまな問題が新たにでてくると思われます。また、西菅公園の歩道設置など、検討課題も残っており、井口市議は教育委員会に対し、「引き続き住民の声をよく聞くように」と求めました。

中小企業支援、保育所待機児解消を早く 日本共産党市議団が、代表質問で要求

六月一七日、日本共産党は川崎市議会本会議で齊藤たかし市会議員が代表質問を行いました。深刻な経済危機で苦境に立たされる市内中小企業や商店街への支援、二〇〇〇人を超える待機児童の解決が求められる保育園など、市民生活を守る緊急の課題を取り上げました。しかし、阿部孝夫市長からは、こうした市民の切実な願い実現のための具体的な答弁はありませんでした。

代表質問では、仕事がほとんどなくなり、「それでも工場を閉めずに耐え忍んでいる」「工場の家賃が払えない」と苦しむ中小の製造業の事業者の声を紹介。日本を代表するものづくりをしている川崎の製造業が事業を継続できるように、工場の家賃補助や、下請け製造業者への固定費補助など経営支援を早急に行うよう求めました。

多摩区商連のプレミアム付商品券の支援を要求

商店街支援では、一〇％・二〇％のプレミアム付商品券で地元商店街の売り上げ促進をしている多摩区商連の取り組みを紹介。「商店街振興になり、消費者も喜ぶ施策こそ必要」とのべ、プレミアム分の半分を市が助成するよう求めました。

しかし平岡陽一経済労働局長は、「ポスターの印刷代程度を補助している」と述べるだけで、プレミアムへの補助には全く言及しませんでした。

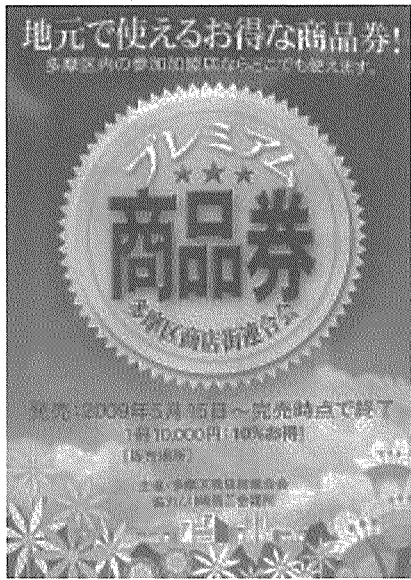
認可保育園の緊急増設を

この四月、認可保育所に入所できなかった児童数は昨年比四一六人増の一九五四人のぼりまりました。四月からフルタイムの職場に復帰しなければならぬ人も入所できないケースも生まれています。

市の認可保育所選考基準では「求職中」は最低ランクのため、不況で共働きを望む人が増えているのに入所できません。齊藤議員は、仕事をするため保育園に入所に申請しても、就労先が決まると

ないから入所はだめだと言われ、預け先がないからハローワークでは仕事が見つけれず、預け先さえあれば早く働きたいとする声は多数あることを示し、市の「必要とする保育サービス量」を広げて潜在的なニーズも含むよう求めました。

代表質問ではさらに、幼稚園の保育料補助の増額、介護保険の充実など、市民生活全般にわたって改善を求めました。



多摩区商連が作成した、プレミアム付商品券のポスター。このお店で使えます！

障害のある子どもたちが安心して学び、育つ川崎を

日本共産党は六月議会で障害児をめぐる問題のいくつかをとりあげました。

特別支援学級の担任の増員を

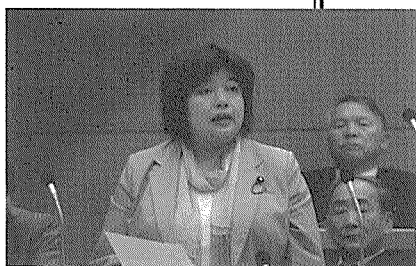
代表質問でとりあげたのは、特別支援学級（各小学校に設置されている学級）の担任が、これまでおよそ4人に1人であったものが、最高で8人に1人と減らされている問題です。8人に1人は国の基準で、それではクラス運営が難しいため、県が補充してきましたが、県が財政難を理由に必要な人数を配置しなくなりました。昨年度は市が非常勤講師を配置して穴埋めしましたが、今年は市も一人も配置せず、これは重大な問題だとして、市の対応を求めました。しかし教育長は「教室の中で補助を行う教育サポーターを配置する」というだけでした。

タイムケア事業の充実を

一般質問で、井口まみ市議は、障害のある中高生が放課後を過ごすタイムケア事業の充実を求めました。

各区1日1ヶ所で開設しているタイムケアは、おもに子ども文化センターの一室を使っているため、場所が狭く、とても希望者全員を受け入れることができません。重度のお子さんも多く、いまの委託料では職員を増やすことができず、毎日利用したいという希望が強いのに、月1、2回というのが実態です。

井口市議は抜本的な充実を求めましたが、国の補助もないため、市は「国の動向を見て検討する」と答え、井口市議は、「必要な福祉は国待ちにならず、自治体が努力すべき」と求めました。



質問する井口まみ市議

ご意見、ご感想をお寄せ下さい

歩道が途切れていた 栗谷への踏切が改善されます

井口まみ市議の質問に市が回答—

世田谷町田線の「栗谷入口」から栗谷に向かう小田急線踏切が幅・改善されます。日本共産党の井口まみ議員がかねてより求めていたもので、六月二十五日の市議会本会議で、同議員の質問に市が回答しました。

この踏切は、車の通行が激しいのに狭く、歩道も不完全で、過去に事故も起こっていました。

今年度中に踏切拡幅の設計を行い、来年度中に拡幅工事を実施する計画です。



歩道が途切れるため、車道に出ざるを得ない危険な踏み切り